

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・新型インフルエンザの影響により、来街者の動きが鈍くなるのではないかと懸念したが、当地域においてはそのようなことがなかった。そのため、景気は回復しつつあると判断した。
		百貨店（営業担当）	・一部製造業等に回復の兆しがみられる等、今後の消費動向も多少良くなる。
		スーパー（店長）	・当店の業態はスーパーマーケットで高頻度に消費される商品を中心に扱っており、ダイレクトメール等の仕掛けをすれば、来客があるため、今後期待できる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・3月にタスポの先行導入をしたエリアはその効果が一巡し、3月に一度落ち込むも、4、5月の来客数は前年比で回復傾向にあった。5月にタスポ導入したエリアについても同様に5月は一巡し落ち込むが、2、3か月後の来客数は前年並みに回復する。一方で、前年は猛暑に加え梅雨明けが非常に早かったため、前年比は反動増になる可能性が高く、前年比でプラスになっても実体はそこまで良くない。
		家電量販店（店員）	・プレミアム付き商品券が発行され、1人当たりの購入上限額は10万円で11万円の商品券を買うことができる。10万円以上の家電が売れると期待できる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・例年転入者の増加が著しく、それに伴い新規客の増加が見込まれる。また夏は需要が増える時期であり、客の様子をみる限りでは、今年の夏もやや上向きに推移する。
		一般レストラン（経営者）	・これからボーナス時期となり、売上は多少増える。客の様子をみても、不景気感はそれほどみえないので、ある程度伸びる。
		都市型ホテル（副支配人）	・7、8月は団体の予約が入っている。新型インフルエンザがまん延しなければやや良くなってくるが、まん延すれば難しい。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行は新型インフルエンザの影響によるキャンセルが減り、夏休みを中心に前年並みの予約数に戻った。国内旅行は航空機、鉄道を利用した旅行より近場の宿泊を選ぶ傾向にある。
		通信会社（総務担当）	・現状をみると、企画、営業等によって加入者は増加する傾向にあり、今後少しずつ良くなる。
		テーマパーク（職員）	・夏休みに向けてイベント等を企画しており、来客数の増加が期待される。また高速道路料金引下げ効果もあり、やや良くなる。個人客の動向は前年比プラスとなるが、団体客については修学旅行需要も含め新型インフルエンザの終息状況による。
		ゴルフ場（支配人）	・客からは以前ほど不景気の話が出なくなっており、これまで抑えられてきた消費がやや上向きになる。
設計事務所（所長）	・公共事業の前倒し発注が予定されており、若干良くなる。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・これから人が動く時期であるが、消費者の収入減や景気の悪さに相殺される。一方景気の悪さは底を打っており、客の様子はやや明るい。
		商店街（代表者）	・新型インフルエンザに対する不安や夏のボーナス減額等の話もあり、依然として景気は不安定の状態が続く。
		商店街（代表者）	・客は先行きが不透明で消費意欲がわからないようである。このまま悪い状態が続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・例年夏場は売行きが悪い時期であるが、客の様子から今年は例年以上に売れる気がしない。
		百貨店（売場主任）	・消費を喚起させるような好条件が見当たらないため、このまま悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・新規ブランドの導入効果で来客数とレジ客数は前年並みとなったが、興味のある商品、必要な商品のみを購入するという客の姿勢は変わらない。一方、1人2セット限定のプレミアム付き商品券は好評であり、2セット購入し、中元商品購入へ備える客が多い。

百貨店（売場担当）	・来客数は前年比5%減という傾向が今後も続く。プレミアム付き商品券が発行され、来客数は若干伸びているが、依然として購買行動は慎重になっている。買上単価と1品単価が若干低下しており、購買率も月によって減ったり増えたりしている。紳士部門については前年比17~18%減、婦人衣料品は同10%減の状態が続いており、今後衣料品の単価の低下が加速してくると、全体の売上はかなり悪くなる。現状はどちらとも言えない。
百貨店（営業企画担当）	・新型インフルエンザのまん延や今夏ボーナスの減額など、景況感は低迷した状況が続く。
スーパー（店長）	・今後もしばらくは客の先行きに対する不安感の改善はみられず、厳しい状況が続く。
スーパー（店長）	・景気対策等により消費マインドが上昇しているような印象を受けるが、今後、夏季賞与の減額が消費者の財布のひもを固くする。団塊世代の退職や若者の中元離れ等により、消費は軽減される。しかしながら飲料、乾麺、UV関連商品等、普段の生活関連品は引き続き好調となり、総じて変わらない。
スーパー（総務担当）	・定額給付金の給付が始まったが、なかなか売上にはつながらない。特に耐久消費財、衣料品等の売上は前年を大幅に下回っており、買い控え傾向は今後も続く。
スーパー（企画担当）	・景気回復の期待は少ないものの、日常必需品を販売する食品小売業としては大幅な落ち込みはなく、現状を維持する。
コンビニ（エリア担当）	・先行きは不透明であり、夏場の気候や景気低迷がいつまで続くかによって売上は大きく変わる。景気対策で所得が増えれば、売上は増加する。
コンビニ（エリア担当・店長）	・景気の悪さは底を脱したと報道されているが、その状況を肌で感じるにはまだ時間が掛かる。もし脱しているのであれば、盛夏期の売上の増加が期待できる。
衣料品専門店（経営者）	・夏物は1品単価が安くなるが、新型インフルエンザ騒動で遠のいていた客足は多少戻り、来客数は増えてくる。
衣料品専門店（店長）	・プレミアム付き商品券が発行されているが、高額の買物に使われている。客の購買意欲が戻っているとは判断出来ないが、購買意欲は刺激されている。期限は8月までなので、当分はこの傾向が続く。
衣料品専門店（店員）	・周辺の百貨店も予算が低く組まれており、まだ景気回復という雰囲気ではない。客の反応を見ても消費に堅実で、浮かれた様子は見受けられない。
衣料品専門店（店員）	・定額給付金が給付されているが、金額が低いため景気は大して良くならない。相変わらず安い物を中心に物は動いており、今後もこの状況が続く。
家電量販店（店員）	・先月の回答で景気は底を打ったと回答したが、まだ底が見えない状況である。エコポイント制度が始まったが、思ったより出足が悪く、その効果はなかなかみられない。
乗用車販売店（従業員）	・車は高い買物であり、減税等が行われても大きくは動かない。
乗用車販売店（管理担当）	・環境対応車に対するエコ減税や補助金の効果、新型車目的の来場は今がピークである。2、3か月くらいはこの現状が続く。
乗用車販売店（販売担当）	・減税対策の効果が表れてこないため、当分は良くない状況が続く。
住関連専門店（経営者）	・定額給付金の給付に合わせプレミアム付き商品券が発売される地域が多いが、生活費や外食、小旅行に使われており、家具の買換えには回ってこない。今後も厳しい状況が続く。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格はやや上昇する傾向にあるが、前年のような上昇ではないので、客の需要はさほど変わらない。客が節約している様子はみられないが、雇用に対して不安を抱いているという客の声が聞かれる。
スナック（経営者）	・客の話聞いても、現在の景気悪化の状況がすぐに良くなるという話はない。先行きに不安を感じながら、金をあまり使えないという雰囲気である。
都市型ホテル（スタッフ）	・景気回復について、地方は大都市圏より遅れて回復する傾向にあり、大都市圏で上向き傾向にあっても、地方の景気は依然悪いままである。
都市型ホテル（スタッフ）	・宴会部門が売上上昇に健闘しているが、他部門の予約状況は依然動きが鈍い。
旅行代理店（業務担当）	・一旦冷え込んだ消費意欲は容易に回復しない。特に新型インフルエンザにより中止となった修学旅行は、延期しても手配が難しく厳しい状況である。

	タクシー運転手	・夜の繁華街で閉店する店が増えている。街にサラリーマンの姿は見られなくなり、タクシーが行列の状態動きが全くない。今後もこの状況は続く。
	タクシー運転手	・底を打ったような印象を受けており、景気対策等でいくらか良くなる。
	通信会社（業務担当）	・携帯電話販売の夏のキャンペーンが始まり、各社新商品が発売され、メディアへの露出は多くなる。しかし来客数の割には販売数は伸びず、厳しい販売状況となる。
	理容室（経営者）	・高速道路料金の引下げにより動きやすくなったため、よそに客が流れ、当店にとっては良くなかった。2、3か月先も地方ではよくなる傾向はない。
	美容室（店長）	・客が低料金の店に流れており、しばらくは今の悪い状態が続く。
	美容室（店長）	・客が固定化しており、新規の客が開拓出来ない状況が続く。
	設計事務所（所長）	・案件の話がまとまるのに3、4か月の時間を要するにもかかわらず、現在その相談がないため、3か月先も良くならない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街は空調設備が完備されていないため、スーパーやコンビニ等に客を奪われ、来客数は更に減る。夏休みに入り、弁当のおかず等の購買がなくなり、買い控えは一層厳しくなる。
	一般小売店〔青果〕（店長）	・青果物は例年夏になると需要がかなり落ちる。加えて消費者の購買心が向上するようなプラス材料がないため、かなり悪くなる。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・贈答品の注文がほとんど無くなり、消費者は1つの商品を選ぶのにも慎重である。景気回復の期待も出来ず、今後も悪戦苦闘となる。
	百貨店（営業担当）	・今月は北海道物産展の開催でやや良かったが、今の来客数の動向では、今後やや悪くなる。
	百貨店（業務担当）	・公務員を始め夏期賞与の減額が報道されているが、ボーナス払いでの買物が控えられており、同時に日々の買物も控えられている。今後も厳しい状況が続く。
	百貨店（企画）	・身の回りで給与の大幅カットや雇用調整が行われており、先行き不安を肌身で感じる状況である。定額給付金の給付も生活必需品の購入への補てんが優先され、新たな消費を誘発しているとは考えにくい。
	スーパー（経営者）	・景気の低迷により夏期賞与の減額等が予想され、今後も販売不振は続き、消費は縮小する。
	スーパー（店長）	・売上がセールに偏る傾向が出始めている。マスコミの先行きに対する悲観的な報道や公務員を始めとするボーナスの削減等を考えると、家計支出の節減は今後も継続する。
	スーパー（店長）	・衣料品の構成比が高い店であり、今後も非常に厳しい状況が続く。
	スーパー（店長）	・消費者の生活防衛意識は今後ますます高まっていく。社会行事関連の父の日については、単価は前年比20%程度落ち込む見通しである。また、中元ギフト商戦についても、各企業のボーナス削減により厳しい状況になる。
	スーパー（総務担当）	・景気低迷が続き、新型インフルエンザが経済にマイナスの影響をもたらすため、今後もっと悪くなる。
	高級レストラン（経営者）	・悪い月が続いたが、予約状況を見ると、少しずつ動いており、前月判断より上方修正した。店としても新しいメニュー作りに取り組んでおり、客から評判の良かったメニューを復活させる取り組みをするため、客の動きはいくらか良くなる。
	高級レストラン（支配人）	・新型インフルエンザの拡大により仕入値が上がったり、流通自体の状況が悪くなるのが考えられる。
	観光型ホテル（スタッフ）	・ここ数年婚礼数は変わらないが、近隣に婚礼施設がオープンするため競争が激化し、厳しくなる。
	観光型ホテル（営業担当）	・新型インフルエンザの影響が旅行、特に修学旅行に出ることが予想されるが、依然、不透明な状態である。
	都市型ホテル（総支配人）	・来月同業他社の新規出店があり、ビジネス客の動向が回復するような明るい情報もないため、需要の分散で更に低迷する。
		タクシー運転手
	美容室（経営者）	・例年美容業界は春のピークから少しずつ下がり、これから夏枯れの時期になる。定額給付金の給付はあったが、消費者はなかなか使おうとしない。

		住宅販売会社（従業員）	・夏期賞与の減額報道が多く、住宅需要は今後更に落ち込む。
		住宅販売会社（従業員）	・定額給付金の給付等景気対策が行われたが、1人当たりの給付額が小さく、客の消費意欲は依然低迷したままである。また、給付金は貯蓄に回っており、景気は良くならない。今後も厳しい状況が続く。
悪くなる		一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから先は暑くなり花のギフトは控えられるため、新規に定期納品ができる客を見つけなければ、売上はますます落ちていく。
		百貨店（営業担当）	・各民間企業の給与削減や公務員の給与の見直し等を含め消費マインドが低下する要素が多く、今後も厳しい状況が続く。
		コンビニ（販売促進担当）	・6月から取引高の大きい大口量販店に他社の3メーカーが入ることになり、割引販売、低価格帯の販売が中心となり厳しくなる。価格帯も88円、98円の袋菓子を中心にすることで対抗できない。夏のボーナスが出ないという社内の話もあり、先行きは非常に厳しい。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・コンビニはおにぎりの100円セールやパンの20円引きセール等の販売促進を行っているが、それに伴う結果が出ない。来客数が増えない以上、今後も厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・部品の売上が前年比90%と全く伸びず、今後もこの状況が続く。
		高級レストラン（専務）	・大河ドラマの効果も薄れ、前年の反動により売上は落ち込んでいる。中心商店街は人通りが少なくなり、客待ちのタクシーが多く見られる。今後も厳しい状況が続く。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・新型インフルエンザの影響で、県外客が少なくなり、開店休業の日が続いている。今後、良くなるとは言えない。
		ゴルフ場（従業員）	・今後の予約状況が非常に厳しい。今までにない割引価格を設定し、単価を低くしなければ来客はない。今までで一番厳しい状況である。
企業動向関連	良くなる	経営コンサルタント	・補正予算が成立し、拡大的経済政策により、一時的にしろ、景気は上向く。
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・梅雨時期はあまり期待できないが、7～8月は現在の居酒屋の状況を見ると、かなり期待できる。冷食加工向けも少しずつ動きが出始めており、期待できる。今のところ食に対する新型インフルエンザの影響も出ておらず、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ハイブリッドカー関連設備の受注が増えている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・生産数が増えており、良くなる。
		建設業（総務担当）	・公共工事の発注が前倒しで行われる等、受注環境が改善しており、今後やや良くなる。
		不動産業（従業員）	・定額給付金に合わせたプレミアム付き商品券の効果により、短期的に消費意欲は回復するため、不動産業も多少の動きがある。
		農林水産業（従業員）	・食品業界は価格競争が非常に激しく、現状よりやや厳しくなる。
変わらない	食料品製造業（経営者）	・納入先の大部分が観光に依存した業態であり、観光客の大幅な減少が売上の減少に顕著に表れている。ある地区においては、ホテル、旅館の宿泊人員が前年から約4分の1減少しており、この傾向は当分変わらない。	
	家具製造業（従業員）	・今後も大きく好転する材料はない。家具は安い物の動きしかなく、全体の受注も横ばいの状況である。また銀行も貸し渋りから貸し剥がしに向かっているとの話が聞かれ、中小企業の資金繰りはもっと厳しくなる。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・景気対策が行われているが、消費者の消費意欲はなかなか上昇せず、このまま売れない状態が続く。受注状況も悪い状態が続く。	
	鉄鋼業（経営者）	・主原料である鉄くず価格が、海外の需要増に引きずられて強含みに転じたため、中小物件を中心に注文量が多少増加した。しかし、新規の建築物件は相変わらず激減しており、予想通り5月の連休明けは引き合い、契約共に厳しい状況となっている。加えて、ディベロッパーや地場ゼネコンなどへの信用不安も台頭しており、当分の間は建設需要の回復は望めない状況である。	
	金属製品製造業（企画担当）	・4月の売上高は過去最悪の数字であった。今が景気の底であるが、当分この状況が続く。	

	電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品金型関連は全般的に先行きが不透明であるが、電気、自動車の在庫調整もやや進み、半導体関連やコネクタ関連を始め、金型は多少動き出すと予想される。
	電気機械器具製造業（経営者）	・先の見通しは全くたたないが、内部で出来る仕事は内部で行う等により、かろうじて現状維持が出来る。
	輸送業（従業員）	・定額給付金の給付やエコポイントなど消費を促す景気対策が行われている。百貨店においては下取りセール等を行い消費意欲を掻き立てようとしており、荷動きも短期的には向上するが、抜本的な対策がないため、景気が上向くのはかなり難しい。
	輸送業（総務担当）	・荷動きが良くなるような動きがないため、しばらくはこのままで推移する。
	金融業（営業担当）	・売上状況の改善はみられず、依然として低迷状態が続いている。3か月先もこの状況が続く。
	金融業（得意先担当）	・取引先の資金対応の状況は、一定の落ち着きを見せている。しかしながら、取引先の受注状況はあまり芳しくなく、今後はやや悪化する。
	広告代理店（従業員）	・受注量が前年比90%の状況が半年以上続いている。家電量販店のエコポイントや自動車の減税等景気対策によるチラシが増えている。しかし、その他の業種が落ち込み、総じてマイナスとなっており、今後も低迷が続く。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先の受注状況を聞いても、改善傾向にある会社は少ない。また、資金繰りも先の見通しが立っていない会社が多い。
	その他サービス業〔物リース〕（従業員）	・一部の報道では景気も底打ち、回復方向へと言われているが、地方では当社を始め、中小企業の足元の数字は悪化する一方で、回復基調には程遠い状況にある。
やや悪くなる	通信業（職員）	・受注に向けて実際に活動している案件数が伸びず、厳しい状況が続く。
	金融業	・一度緊急経済支援資金を導入した企業からの相談が増加している。セーフティネットを限度額まで利用した中小企業の資金繰り破たんが予想され、今後はやや悪くなる。
	不動産業	・銀行の物件担保評価が低いいため、融資状況が厳しい状況である。物件が流通していかないため、今後の回復は見込めない。
悪くなる	繊維工業（営業担当）	・同業者に聞いても、先の見通しが全く立っていない。また、取引先のメーカーの倒産が増えており、厳しい状況が続く。
	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の話によると、2～3か月で好転する見込みはない。零細企業は取引先の状況により、厳しい状況が続く。
	建設業（従業員）	・見積案件は数多くあるが、競争相手が多く、なかなか受注まで結びつかない。公共工事は、入札の前倒しや最低額の引上げ等明るい兆しが見受けられるが、前倒しなので今からが減少することも見込まれる。また、民間企業の設備投資は依然見受けられない。
	その他サービス業	・建設業界は景気の悪化がより深刻となる見通しである。建設業界の企業倒産が毎日のように新聞等で伝えられており、見通しの良くなる条件を見いだすことが困難である。
雇用 関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
	変わらない	-
	人材派遣会社（社員）	・注文は若干増えているが、人員を増やせない企業も多くあり、今は全体的に良くなるという判断は難しい。
	人材派遣会社（社員）	・取引先の在庫調整が進んできており、これから回復の兆しがみられる。
	新聞社〔求人広告〕	・企業によっては派遣社員の仕事を社員に置き換えているところもあり、それが進めば状況は悪くなる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ボーナスシーズンまでは変わらないが、ボーナスが減少した影響が始める8月以降は厳しくなる。
	職業安定所（職員）	・新規求職者は前年を上回り、新規求人数は下回る状況にある。今後もこの状況が続く。
	職業安定所（職員）	・事業主都合の離職者が前月、前年と比較して大幅に増加しており、消費が非常に低迷しており、今後も変わらない。
	民間職業紹介機関（職員）	・雇用情勢の悪化は先月と変化はなく、厳しい環境が続いている。特に中高年層の求人が激減するなかで、雇用の供給バランスは大きく崩れており、改善される見通しは全くない状況である。
	学校〔大学〕（就職担当者）	・各企業の人事担当者との話では、これから求人活動を拡大、積極展開するという声は皆無である。現状では、夏、秋採用という動きもみられない。

やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・好転する材料がなく、新型インフルエンザ等の悪影響も予測される。
	職業安定所(職員)	・新規求人数の減少、新規求職者数の増加傾向は引き続き、続くものと見込まれ、有効求人倍率も0.4倍台を推移する。
	職業安定所(職員)	・新規求職者数は引き続き増加傾向にある。求人も大幅な減少が続いており、厳しい状況である。
悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・7月は山笠や中元、夏休みと短期バイトの求人需要が増える時期ではあるが、新型インフルエンザの影響が景気悪化に更に追い打ちをかけることが懸念される。
	民間職業紹介機関(社員)	・電機、半導体関連企業では今後景気回復の兆しが見えなければ、一斉休業、契約終了を計画しているという情報もあり、求人が増加に転じるきっかけが見えてこない。
	民間職業紹介機関(支店長)	・月末契約終者数が日々増加し、一方で需要の増加もない。大手企業からの契約単価の値下げ要請が相次いでおり、今後、ますます悪くなる。